

HP OpenVMS CIFS Version 1.2 ECO1 リリース・ノート

2011 年 10 月
第 1.0 版



© Copyright 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

著作権情報

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており、本書中の解説および図、表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに、その全体または一部を、いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また、本書に記載されている事項は、予告なく変更されることがありますので、あらかじめご承知おきください。万一、本書の記述に誤りがあった場合でも、日本ヒューレット・パカードは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は、所定のライセンス契約が締結された場合に限り、その使用あるいは複製が許可されません。日本ヒューレット・パカードは、弊社または弊社の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合、その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

HP CIFS Server はオープンソース製品 Samba の派生製品で、GPL ライセンスの制限下で提供されます。

Intel および Itanium は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその関連会社の登録商標です。

Microsoft, Windows, および Windows NT は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

原典

『HP OpenVMS CIFS Version 1.2 ECO1 Release Notes』 Copyright 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

目次

まえがき.....	7
対象読者.....	7
本書の構成.....	7
1 はじめに.....	9
1.1 配布キット.....	9
1.2 ソースファイルのビルド.....	9
1.3 全般的な注意事項.....	10
2 CIFS の機能.....	13
2.1 HP CIFS Server Version 1.2 ECO1 の新機能.....	13
2.2 HP CIFS Server Version 1.2 の新機能.....	13
2.3 HP OpenVMS CIFS Server V1.1 ECO1 で提供する機能.....	14
2.4 HP OpenVMS CIFS Server V1.1 で提供する機能.....	15
3 修正された問題.....	17
3.1 SAMBA\$ROOT:[BIN]SAMBA\$MANAGE_CIFS.COM に対するシンボル SMBMANAGE の定義.....	17
3.2 ODS-2 ディスク関連の修正.....	17
3.3 tdbbackup ユーティリティがクラッシュする問題の解決.....	17
3.4 KRB5.CONF ファイルが複数作成される問題の修正.....	17
3.5 Windows 2008 R2 ドメインに対するメンバ・サーバとして CIFS Server を構成できない問題の修正.....	17
3.6 SAMBA\$MANAGE_CIFS.COM で作成したユーザ・アカウントに正しくないパスワードを設定する問題の修正.....	17
3.7 SAMBA\$CONFIG.COM の問題の修正.....	18
3.8 Windows を通して共有にアクセスした場合のチャンネル・リークの修正.....	18
3.9 スタック・オーバーフローの脆弱性の問題の修正.....	18
3.10 LAT プリンタが共有されない問題の修正.....	18
3.11 UTF-8 文字セット名が UTF8 になっている問題の修正.....	18
3.12 Unigraphics CAD を使用する際の問題の修正.....	18
3.13 NMBD がクラッシュする問題の修正.....	18
3.14 ファイル操作の実行に関する問題の修正.....	18
3.15 testparm ユーティリティが正しくないパスを表示する問題の修正.....	18
3.16 testparm ユーティリティが UNIX パス名を不適切に変更する問題の修正.....	19
3.17 VARVFC モジュールでドキュメントを印刷できない問題の修正.....	19
3.18 Unicode 文字の認識に関する問題の修正.....	19
3.19 VTF モジュールが使用されている場合にファイル保護モードを参照できない問題の修正.....	19
3.20 VFC ファイルの切り捨ての修正.....	19
3.21 MultiNet サーバが再起動しない問題の修正.....	19
3.22 存在するはずのファイルが CIFS 共有にリストされない問題の修正.....	19
3.23 StreamLF と Record Formatted File の処理の問題.....	19
3.24 ODS-2 ディスク上のホーム共有にアクセスできない問題.....	20
3.25 組み込みグループあるいはリソース識別子 cifs\$users に設定されたパーミッションが機能しない問題.....	20
3.26 ホスト所有者にパーミッションがない場合にファイル名の変更あるいは削除ができない問題.....	20
3.27 username.map ファイルでユーザーがマップされている場合にファイルにアクセスできないという問題.....	20

3.28 Computer Management を使用して共有のパーミッションを設定できない問題.....	20
3.29 共有におけるファイルの作成/修正/削除時に SMBD プロセスがクラッシュする問題.....	20
3.30 HP OpenVMS CIFS Server が vms path names パラメーターの値 no を無視する問題.....	20
3.31 SMBD プロセスが複数の場所でクラッシュする問題.....	20
3.32 HP OpenVMS CIFS V1.0 TDB 移行時の TDB 移行ユーティリティのクラッシュ.....	21
3.33 バッファサイズを超えるドキュメントを印刷できない問題.....	21
3.34 グローバル・グループメンバーをリストする際に NET RPC GROUP MEMBERS がクラッシュ する問題.....	21
3.35 ファイルにパーミッションを設定する際にユーザー・パーミッションが見えなくなる問 題.....	21
3.36 プロセス作成時に多数の Audit ログメッセージが出力される問題.....	21
3.37 Windows からディレクトリを列挙する際に SMBD プロセスがループする問題.....	21
3.38 ファイルアクセス時に警告メッセージが生成される問題.....	21
3.39 ユーザーアカウントの移行時に NET RPC VAMPIRE ユーティリティがクラッシュする問 題.....	21
3.40 2 つのユーザーセッションをサービスする際に SMBD プロセスがクラッシュする問題.....	22
3.41 SYSUAF ファイルで READ アクセスが WORLD に設定されている場合に SMBD プロセスが クラッシュする問題.....	22
3.42 通常のドメインアカウントから HP OpenVMS CIFS Server へ印刷できない問題.....	22
3.43 クラスタ環境での browse.dat ファイルの累積.....	22
4 既知の問題.....	23
4.1 SYSGEN パラメータ ALLOCLASS が 0 の場合にクラスタ環境で発生する問題	23
4.2 Kerberos の認証が失敗する問題.....	23
4.3 論理名変換が 1024 文字を超えている場合に発生する問題	23
4.4 Samba サーバの構成が変更された場合に発生する共有へのアクセスの問題	23
4.5 NET RPC VAMPIRE ユーティリティのフェール.....	23
4.6 NET RPC VAMPIRE ユーティリティのレスポンスの遅れ.....	24
4.7 NET RPC JOIN または NET RPC TESTJOIN がエラーメッセージで失敗する.....	24
4.8 プロテクションおよび ACL が正しく表示されない.....	24
4.9 SMBPASSWD ユーティリティがクラッシュする.....	24
4.10 エラーメッセージ「The Network Name cannot be Found」.....	25
4.11 ディスクに割り当てられるファイルサイズが実際のファイルサイズよりも大きい.....	25
4.12 HP OpenVMS CIFS ユーティリティがクラッシュする.....	25
4.13 NET RPC JOIN コマンドが失敗する.....	25
4.14 username マップファイルに格納されたユーザーマップの問題.....	26
4.15 共有における VFS モジュールの問題.....	26
4.16 net time ユーティリティがクラッシュする.....	26
4.17 Telnetsymbion プリントキューで意図しない文字がプリントされる.....	26
4.18 SAMBA\$CONFIG によるクライアント・キャパシティの設定.....	26
4.19 Advanced Server for OpenVMS をメンバーサーバーとして追加する場合の問題.....	27
4.20 Username マップファイルでグループを使用できない.....	27
4.21 NET RPC TRUSTDOM コマンドに関する問題.....	27
4.22 WINS サーバーとして構成すると NMBD プロセスがループを開始する.....	27
4.23 共有レベル・セキュリティの問題.....	28
4.24 NET RPC FILE CLOSE コマンドが動作しない.....	28
4.25 Microsoft Signing を有効にすると Windows Vista にログインできない.....	28
5 制限事項.....	29

表目次

1-1	インストールの前提となるキット.....	9
1-2	必要なディスク容量.....	9

まえがき

このドキュメントでは、HP OpenVMS CIFS Server の機能、修正された問題、既知の問題、および制限事項について説明します。

対象読者

本書は、OpenVMS システム管理者およびネットワーク管理者を対象にしています。HP OpenVMS CIFS Server の詳細については、HP OpenVMS CIFS Server のマニュアルを参照してください。

<http://h50146.www5.hp.com/products/software/oe/openvms/network/cifs/>

本書の構成

本書の構成は次のとおりです。

第1章 はじめに

HP OpenVMS CIFS Server ソフトウェアに関する情報を提供します。

第2章 CIFS の機能

CIFS でサポートする機能について説明します。

第3章 修正された問題

修正された問題について説明します。

第4章 既知の問題

既知の問題について説明します。

第5章 制限事項

制限事項について説明します。

第1章 はじめに

1.1 配布キット

HP OpenVMS CIFS Server ソフトウェアは OpenVMS Alpha および OpenVMS Integrity でサポートされます。以下のキットは、HP OpenVMS CIFS Version 1.2 の ECO キットです。

- OpenVMS Alpha V8.3 および V8.4 用のキット名：
HP-AXPVMS-SAMBA-V0102-ECO1-1.SFX_AXPEXE
- OpenVMS Integrity Server V8.3, V8.3-1H1 および V8.4 用のキット名：
HP-I64VMS-SAMBA-V0102-ECO1-1.SFX_I64EXE

前提となるキット

HP OpenVMS CIFS Version 1.2 ECO1 キットをインストールする前に、以下のキットがシステムにインストールされている必要があります。

表 1-1 インストールの前提となるキット

キット名	OpenVMS バージョン	アーキテクチャ
HP-I64VMS-VMS83I_ACRTL-V0900-4.PCSI\$COMPRESSED	8.3	Integrity servers
HP-I64VMS-VMS83I1H1I_ACRTL-V0500-4.PCSI\$COMPRESSED	8.3-1H1	Integrity servers
HP-I64VMS-VMS84I_UPDATE-V0500-4.PCSI\$COMPRESSED	8.4	Integrity servers
DEC-AXPVMS-VMS83A_ACRTL-V0700-4.PCSI\$COMPRESSED	8.3	Alpha
DEC-AXPVMS-VMS84A_UPDATE-V0500-4.PCSI\$COMPRESSED	8.4	Alpha

Kerberos Version 3.0 以上をインストールする必要もあります。

必要なディスク容量

表 1-1 にソフトウェアのインストールに必要なディスク容量を示します。

表 1-2 必要なディスク容量

オペレーティングシステム	ディスク容量 (およそそのブロックサイズ)
OpenVMS Alpha V8.3 および V8.4	94558
OpenVMS Integrity V8.3, V8.3-1H1 および V8.4	108960

1.2 ソースファイルのビルド

OpenVMS 上で HP OpenVMS CIFS のソースファイルをビルドする必要がある場合は、以下の手順で行ってください。

1. HP OpenVMS CIFS の PCSI キットで提供されるセーブセット SAMBA\$SRC.BCK から適当なディレクトリ上にソースファイルを展開してください。

HP OpenVMS CIFS のインストール後、HP OpenVMS CIFS のキットからソースファイル・セーブセットを抽出するには、次のコマンドを入力します。

```
$ PRODUCT EXTRACT FILE SAMBA /SELECT=SAMBA$SRC.BCK/DESTINATION=[TEST1]
```

この例では、PCSI ユーティリティは、HP OpenVMS CIFS のキットから SAMBA\$SRC.BCK ファイルを指定したディレクトリである [TEST1] に抽出しています。



注記: サンプルのインストールログに示すように、HP OpenVMS CIFS のインストール時に HP OpenVMS CIFS のキットからソースファイル・セーブセットを抽出することもできます。この場合、`SAMBA$ROOT:[SRC]` に `SAMBA$SRC.BCK` ファイルが抽出されます。サンプルのインストールログは、『HP OpenVMS CIFS 管理者ガイド』の付録 A を参照してください。

2. インストールされていない場合は、最新の HP C コンパイラをインストールします。バージョン V7.1 以上が必要です。
3. HP Module Management System (MMS) for OpenVMS をインストールします。MMS for OpenVMS ソフトウェアは OpenVMS DECSET のソフトウェア・パッケージに含まれています。
4. ソースディレクトリで `BUILD.COM` を実行します。
 - `BUILD.COM` に `RELEASE` パラメータを指定して実行すると、すべての実行可能ファイルが `[.BIN.REL]` ディレクトリに置かれます。
 - `BUILD.COM` に `DEBUG` パラメータを指定して実行すると、すべての実行可能ファイルが `[.BIN.DBG]` ディレクトリに置かれます。

1.3 全般的な注意事項

ここでは HP OpenVMS CIFS Server に関する全般的な注意事項について説明します。

- HP OpenVMS CIFS Server Version 1.2 ECO1 をインストールする前に、HP OpenVMS CIFS Server V1.0 より前のバージョンが実行されていないことを確認してください。システムに HP OpenVMS CIFS V1.0 より前のバージョンが存在する場合は、これをアンインストールしてから以下を確認してください。
 1. `SAMBA_ROOT:[000000]` にあるファイルをすべて削除すること。
 2. `SAMBA*` で始まる論理名の割り当て解除すること。
 3. HP OpenVMS CIFS Server Version 1.2 ECO1 をインストールした後、既存の `SMB.CONF` ファイルを `SAMBA$ROOT:[LIB]` にコピーした場合は、次の行を変更する必要があります。
 - `SAMBA_ROOT` を `SAMBA$ROOT` に変更
 - `guest account = SAMBA__GUEST` を `guest account = SAMBA$GUEST` に変更
- HP OpenVMS CIFS Server ソフトウェアをインストールする前に、最新の C RTL ECO キットをインストールする必要があります。最新の C RTL キットの入手方法については、『HP OpenVMS CIFS 管理者ガイド』を参照してください。
- HP OpenVMS CIFS Server ソフトウェアをアンインストールすると、`SMB.CONF` ファイルと `TDB` ファイルを残すかどうか尋ねるプロンプトが表示されます。「No」を選択すると、構成ファイルを含むすべてのファイルが削除されます。
- デフォルトの `SYSUAF` アカウントテンプレートである `SAMBA$TMPLT` を使用して、HP OpenVMS CIFS Server 用の新しい OpenVMS ユーザーアカウントを作成できます。新しい OpenVMS ユーザーアカウントの作成方法の詳細については、『HP OpenVMS CIFS 管理者ガイド』を参照してください。
- OpenVMS に新規ユーザーを追加する場合は、UIC がユニークであることと、ユーザーの作成時に `/ADD_IDENTIFIER` 修飾子を使用していることを確認してください。ユーザーが作成されたら、ユーザー識別子がユーザー名と一致することと、`DISUSER` フラグが設定されていないことを確認してください。
- HP OpenVMS CIFS Server をインストールすると、`SAMBA$SMBD`、`SAMBA$NMBD`、`SAMBA$GUEST`、`SAMBA$TMPLT` および `CIFSADMIN` という 5 つの OpenVMS ユーザーアカウントが作成されます。これらのアカウントは HP OpenVMS CIFS Server の内部で使わ

れるものです。SAMBA\$SMBD, SAMBA\$NMBD, および SAMBA\$GUEST アカウントの属性は、変更しないでください。

- SAMBA\$SHUTDOWN.COM を実行すると NMBD プロセスが停止し、すべてのクライアント・セッションとプロセスが終了します。このコマンドプロシージャは、システムシャットダウン時に実行されるように SYS\$MANAGER:SYSHUTDOWN.COM に追加してください。
- HP OpenVMS CIFS Server は、OpenVMS ユーザーアカウントのデフォルトの権限だけを使用します。
- 移行ユーティリティは HP OpenVMS CIFS Server V1.1 からは、別キットで提供されます。移行ユーティリティは次の Web アドレスからダウンロードできます。

http://h71000.www7.hp.com/network/CIFS_for_Samba.html

第2章 CIFS の機能

この章では、HP OpenVMS CIFS Server の機能について説明します。HP OpenVMS CIFS Server でサポートされている主な機能を以下に示します。

- HP CIFS Server は、NT4 スタイルのドメインでも ADS ドメインでもメンバとして構成できます。
- HP CIFS Server は、NT スタイルの Samba ドメインの PDC (Primary Domain Controller) および BDC (Backup Domain Controller) として構成できます。
- 完全なブラウジング機能を提供します。
- OpenVMS Cluster 上で、メンバ・サーバとして HP CIFS Server をサポートします。
- ファイルのセキュリティは、OpenVMS のファイル・セキュリティ機能に基づいて提供されます。
- ODS-5 および ODS-2 ボリュームをサポートします。
- OpenVMS のファイル・フォーマットをサポートします。
- ASCII, ISO-8859-1, UTF-8, および VTF-7 文字セットをサポートします。
- NFS および DFS マウントのディスク上にある共有をサポートします。
- セッション・セキュリティ, NTLMSSP, および 128 ビット暗号化をサポートします。
- 新しいプリンタ・ドライバをサポートします。

2.1 HP CIFS Server Version 1.2 ECO1 の新機能

- ODS-2 ディスク上のディレクトリで、最大 39 文字のディレクトリ名に複数のドットを含むことができます。
- SMB.CONF ファイルに "lock directory" および "private dir" パラメータが含まれていても、SAMBA\$CONFIG.COM を使用できます。
- Windows 7 が CIFS PDC に参加するワークステーションとなるために、SMBv1 プロトコルで CIFS Server と通信するように構成できます。

Windows 7 クライアントを CIFS PDC に対するワークステーションとして構成する手順は、以下のとおりです。

1. NT4 ドメインなので DNS 名を使った名前解決を行わないようにレジストリの設定を行います。レジストリ・エディタ (regedit) で
HKLM\System\CCS\Services\LanManWorkstation\Parameters に DWORD
(DNSNameResolutionRequired = 0) を追加します。



注記: Windows 2008 あるいは Windows 7 クライアントは、間違って構成された環境を早期に検出するために DNS を使った名前解決で検証します。

2. ローカルグループ・ポリシーエディタ (gpedit) を使用して、「コンピュータの構成」→「Windows の設定」→「セキュリティの設定」→「ローカルポリシー」→「セキュリティオプション」をオープンして、「ネットワークセキュリティ:LAN Manager 認証レベル」の値を「NTLM 応答のみ送信する」に設定します。
- SAMBA 共有パスが検索リスト論理名の場合、SAMBA は Advanced Server の動作と同じように検索リスト論理名の最初の値のみを受け入れます。
 - testparm ユーティリティは、"path" パラメータで指定された論理名をすべて 20 レベルまで解決します (すなわち、最大 20 レベルまで変換が繰り返されます)。
 - Samba は、共有のパスの値としてシステムワイドおよびクラスタワイドの論理名をサポートします。

2.2 HP CIFS Server Version 1.2 の新機能

HP OpenVMS CIFS Server 1.2 で提供する新機能は以下のとおりです。

- インストールが改善され HP CIFS Server の構成が自動化されました。
- Windows ADS レルムでメンバとして HP CIFS Server をサポートします。
- ファイル・セキュリティが以下のとおり改善されました。
 - SMB.CONF パラメータの mask と mode の使用方法が簡略化されました。
 - SMB.CONF パラメータ mask および mode で DELETE 保護ビットがサポートされます。
 - OWNER/GROUP/WORLD RMS 保護マスクに対して Windows から DELETE 保護ビットを設定する機能がサポートされます。
 - セキュリティを設定しても VMS ACE の順序を保持し続けます。
 - Windows で所有者/グループを作成する際に default_protection ACE をマッピングします。
- 性能の強化
 - 非ストリーム形式のファイルに対し ACE にファイル・サイズを保管します。
 - シーケンシャルな VAR および VFC フォーマットのファイルに対し、ファイル長のヒント値を自動的にアップデートするユーティリティを提供します。
 - 最適化された FDL ファイルを使用した TDB ファイルの作成
 - オープン・ファイルのキャッシュ機能
- ODS2 ボリュームのサポート
 - ディレクトリの表示性能の改善
 - ファイル名で拡張 ASCII 文字をサポート
 - 79 文字長のファイル名
- 固定および不明確なフォーマットのファイル作成のサポート
- ASV から CIFS への共有のセキュリティの移行をサポート
- 新しい CIFS ユーティリティのサポートと既存ユーティリティの改善
- 複数の idmap バックエンドのサポート

2.3 HP OpenVMS CIFS Server V1.1 ECO1 で提供する機能

HP OpenVMS CIFS Server V1.1 ECO1 で提供する新機能は以下のとおりです。

- CONTROL フラグのサポート
 - a. Windows システムからファイルのセキュリティが設定された場合、"Full Permission"は、OpenVMS システム上の ACE で READ+WRITE+EXECUTE+DELETE+CONTROL アクセス権にマップされます。
 - b. Windows の"Take Ownership"および"Change permission"は OpenVMS システムの CONTROL にマップされます。
 - c. ファイルあるいはフォルダーで"Full Permission", "Take Ownership"あるいは"Change Permission"のパーミッションを持つ一般ユーザーが、特定のファイルあるいはフォルダーに対して他のユーザー/グループのパーミッションを設定することができます。
- 管理者は、Windows のドメインユーザー/グループあるいは HP OpenVMS CIFS のユーザー/グループのどちらかの所有権を変更することにより、ファイルあるいはフォルダの所有者を変更できます。
- 固定長レコードフォーマットの順編成ファイル、未定義の順編成ファイル、および索引順編成ファイルの読み取りをサポートします。
- HP OpenVMS CIFS Server は SMB.CONF の新しい共有レベルパラメーター vms rms format をサポートし、このパラメータを使用して (デフォルトの Stream レコードフォーマットではなく)Stream_LF レコードフォーマットでファイルを作成することを指定できます。



注記: 以前のバージョンでは、`vfs objects` パラメーターに値 `streamlf` を指定することにより、この機能が制御されていました。

`vms rms format` パラメーターのデフォルト値は `stream` です。

`Stream_LF` レコードフォーマットでファイルを作成する共有に対して、`SMB.CONF` ファイルの対応する共有定義で次のように指定してください。

```
vms rms format = streamlf
```



注記: `vfs objects = varvfc` パラメーターは、`SMB.CONF` ファイルのそれぞれの共有定義か `[global]` セクションのどちらかに追加する必要があります。

- 単一のディレクトリに `SMDB` プロセスダンプを作成します。
HP OpenVMS CIFS Server Version 1.1 ECO1 for OpenVMS は、システム論理名 `SAMBA$PROCDMP` を提供します。 `SMDB` プロセスが異常終了した場合、この論理名で指定されるディレクトリに `SMDB` プロセスダンプが作成されます。
- `SMBSTATUS` でオプション `--nodename=<nodename>` を指定すると、ノード固有の HP OpenVMS CIFS Server 情報を表示します。
- Advanced Server PDC から HP OpenVMS CIFS Server PDC への移行をサポートします。
- Windows 2008 のサポート

この機能をサポートするためには、次のように `SMB.CONF` のグローバルパラメータ `"require strongkey"` を `"yes"` に設定してください。

```
[global]  
require strongkey = yes
```

2.4 HP OpenVMS CIFS Server V1.1 で提供する機能

HP OpenVMS CIFS Server V1.1 で提供する新機能は以下のとおりです。

- Samba V3.0.28a ベース
- HP OpenVMS CIFS Server ソフトウェアのパフォーマンス向上
- Windows Vista クライアントとの互換性の向上
- ポート 445 のサポート
- PDC (プライマリ・ドメインコントローラ) のサポート
- Windows Vista クライアント用に NTLMv2 をサポート
- VFC ファイルのサポート
- TDB 処理の向上

TDB パフォーマンスを向上させるため、TDB キーの取得に使用するハッシュアルゴリズムが変更されました。このため、HP OpenVMS CIFS Server V1.1 を既存の HP OpenVMS CIFS Server V1.0 システムにインストールした後、V1.0 の TDB ファイルを V1.1 の TDB ファイルに移行する必要があります。HP OpenVMS CIFS V1.1 のインストール中、TDB 移行ユーティリティは自動的に V1.0 の TDB ファイルを V1.1 の TDB ファイルに移行します。

- 親オブジェクトに設定された ACL の子オブジェクトへの継承
- 「`OPTIONS=DEFAULT`」および「`DEFAULT_PROTECTION`」ACE のサポート

第3章 修正された問題

この章では、本リリースの HP OpenVMS CIFS Server で修正された問題について説明します。

3.1 SAMBA\$ROOT:[BIN]SAMBA\$MANAGE_CIFS.COM に対するシンボル SMBMANAGE の定義

HP CIFS Server の共有、ユーザ、グループ、アカウント・ポリシー、および信頼の管理には、SAMBA\$MANAGE_CIFS.COM が使用されます。SAMBA\$MANAGE_CIFS.COM の実行には SMBMANAGE シンボルを使用すべきです。

3.2 ODS-2 ディスク関連の修正

- ODS-2 ディスクでのエンコードあるいはデコードで発生するメモリ・リークが修正されています。
- ODS-2 ディスク上にあるログイン・ディレクトリを “homes” 共有で使用している場合、ユーザは有効なアクセス権があってもファイルを削除できないという問題が修正されています。この問題は、vms path names パラメータが 'no' に設定されている場合に発生していました。
- ODS-2 ディスクを ODS-5 ディスクに変換するための ODS-2 変換ユーティリティが処理に失敗する問題が修正されています。
- ODS-2 のセキュリティ問題が解決されています。
- ODS-2 ディスク上の共有のセキュリティ・タブが無いという HP CIFS Version 1.2 の問題が解決されています。

3.3 tdbbackup ユーティリティがクラッシュする問題の解決

tdbbackup ユーティリティがデフォルトの拡張子として .bak を使用するため、ODS-2 ディスクでの 2 つのドット (..) が原因で tdbbackup のファイル作成が失敗するという問題が修正されています。

3.4 KRB5.CONF ファイルが複数作成される問題の修正

ADS セキュリティ・モードが使用されている場合に、SAMBA\$ROOT:[VAR.KRB] ディレクトリに複数の KRB5.CONF ファイルが作成されるという問題が修正されています。

3.5 Windows 2008 R2 ドメインに対するメンバ・サーバとして CIFS Server を構成できない問題の修正

ADS モードで Windows 2008r2 ドメインにメンバ・サーバとして参加できないという HP CIFS Version 1.2 の問題が解決されています。

3.6 SAMBA\$MANAGE_CIFS.COM で作成したユーザ・アカウントに正しくないパスワードを設定する問題の修正

HP CIFS Server の共有、ユーザ、グループ、アカウント・ポリシー、および信頼を管理するためのスクリプト SAMBA\$MANAGE_CIFS.COM を使用した場合、パスワードが正しく設定されず、正しいパスワードを入力してもパスワードが正しくないというメッセージを表示する問題が解決されています。

3.7 SAMBA\$CONFIG.COM の問題の修正

- ユーザにパスワード入力のプロンプトを表示して SAMBA\$CONFIG.COM の処理が中断した時にスクリーン設定が “Echo Off” のまま残り、パスワードの設定後に発行されるコマンドや指示が端末に表示されなくなるという問題が解決されています。
- SAMBA\$CONFIG.COM で Print コマンド・オプションが変更された場合、正しくない値を取得するという問題が修正されています。

3.8 Windows を通して共有にアクセスした場合のチャンネル・リークの修正

Windows クライアントから CIFS サーバにアクセスする場合に、チャンネル・リークが発生するという問題が修正されています。

3.9 スタック・オーバーフローの脆弱性の問題の修正

Version 3.5.5 より前の Samba の SID (Windows Security ID) 解析処理に存在するスタック・オーバーフローの脆弱性を利用して、悪意のある攻撃者が細工した SID を送り込むことで、サービス妨害(クラッシュ)を引き起こしたり、任意コードの実行を引き起こす可能性があるという問題が修正されています。この問題に対しては、オープンソースの Samba に対して CVE-2010-3069 がリリースされています。

3.10 LAT プリンタが共有されない問題の修正

CIFS を使用したネットワーク上で LAT プリンタが共有できないという問題が修正されています。

3.11 UTF-8 文字セット名が UTF8 になっている問題の修正

CIFS におけるデフォルトの UNIX 文字セットが正しく UTF-8 になっていない問題が修正されています。

3.12 Unigraphics CAD を使用する際の問題の修正

Unigraphics CAD の TCL スクリプトから Samba 上にファイルを作成する際に発生していた問題が修正されています。

3.13 NMBD がクラッシュする問題の修正

システム識別子 UIC がシステム・ユーザ名と一致しない場合、NMBD プロセスがクラッシュして、SAMBA\$ROOT:[VAR.CORES.NMBD] ディレクトリではなく現在のディレクトリにダンプ・ファイルが作成されるという問題が修正されています。

3.14 ファイル操作の実行に関する問題の修正

共有のパスが検索リスト論理名を含み、一方、その論理名が指す複数のディレクトリにファイル名とバージョン番号が同一のファイルが存在する場合、ファイルへのアクセスや作成あるいは削除の際に問題が発生していました。この問題により、データの損傷や不一致を引き起こす場合もありました。この問題は修正されています。

3.15 testparm ユーティリティが正しくないパスを表示する問題の修正

パスが検索リスト論理名の場合に、testparm ユーティリティが、共有に対する SMB.CONF 内のパスを間違えて変換するという問題が修正されています。

3.16 testparm ユーティリティが UNIX パス名を不適切に変更する問題の修正

testparm ユーティリティが、論理名を含む UNIX パス名を OpenVMS パス名に変更するという問題が修正されています。この問題は、vms path names パラメータが 'no' に設定されている場合に発生していました。

3.17 VARVFC モジュールでドキュメントを印刷できない問題の修正

WordPad アプリケーションを使用して、クライアントから LPD プリンタキューに対応するプリンタ共有に対して印刷を行うと、その共有が VARVFC モジュールをロードしている場合、クラッシュが発生するという問題が修正されています。

3.18 Unicode 文字の認識に関する問題の修正

^A0 から ^FF の Unicode 文字が CIFS に認識されないという問題が修正されています。

3.19 VTF モジュールが使用されている場合にファイル保護モードを参照できない問題の修正

SMB.CONF で VTF モジュールを使用している場合、ACL によるファイル許可設定が適用されないという問題が修正されています。SMB.CONF で以下のパラメータが使用されている場合、ACL の使用が妨げられ、所有者、グループ、ワールドのアクセス許可のみが表示されていました。

```
unix charset = UTF-8
dos charset = CP850
vfs objects = vtf
vms path names = no
```

3.20 VFC ファイルの切り捨ての修正

有効なファイル・ヒント値を持つ VFC PRN ファイルが、Windows 上でのオープンの際に切り捨てられる問題が修正されています。VFC PRN ファイルのファイルサイズは、ODS-5 ディスク上でファイルヒント値が有効か無効かに関係なくファイル全体を読み取って計算されます。その他の属性を持つ VFC ファイルに関しては、ファイルサイズはファイルヒント値を使用して計算されます。

3.21 MultiNet サーバが再起動しない問題の修正

SMBD サービスが有効あるいは無効になった際に MultiNet サーバが再起動せず、SMBD サービスが無効になった場合に SMBD プロセスが終了しないという問題が修正されています。

3.22 存在するはずのファイルが CIFS 共有にリストされない問題の修正

マップされたネットワーク・ドライブで Windows Explorer を使用すると、存在するはずのファイルが CIFS の共有に表示されない問題が修正されています。

3.23 StreamLF と Record Formatted File の処理の問題

HP CIFS Server が、共有では StreamLF と VARVFC VFS オブジェクト仕様 (vfs objects=varvfc streamLF) をサポートしない問題が修正されています。

3.24 ODS-2 ディスク上のホーム共有にアクセスできない問題

ログインディレクトリで ODS-2 ディスクをポイントしている OpenVMS ユーザーが、ODS-2 ディスク上にあるホーム共有にアクセスすることができないという問題が解決されています。

3.25 組み込みグループあるいはリソース識別子 `cifs$users` に設定されたパーミッションが機能しない問題

あらかじめ用意されている `Users` グループあるいはそれに関連するリソース識別子である `cifs$users` にフルパーミッションが設定されているような HP OpenVMS CIFS 共有にユーザーがアクセスする場合に、そのユーザーがその共有にアクセスできないという問題が解決されています。

3.26 ホスト所有者にパーミッションがない場合にファイル名の変更あるいは削除ができない問題

2人の OpenVMS ユーザーが同じ UIC グループに属し、そのグループにフォルダを削除するためのパーミッションがない場合、他方のユーザーが作成したファイルの削除あるいはファイル名変更はできませんが、リソース識別子でこれらのアカウントにフルパーミッションが設定されている場合にも変更できないという問題がありました。この問題は解決されています。

3.27 `username.map` ファイルでユーザーがマップされている場合にファイルにアクセスできないという問題

ドメインユーザーが `username.map` ファイルを使用して VMS ユーザーにマップされている場合に、そのユーザーが属するドメイングループのパーミッションが設定されても機能しないという問題が解決されています。

3.28 Computer Management を使用して共有のパーミッションを設定できない問題

管理者が Windows 上の Computer Management ユーティリティを使用して共有のパーミッションを設定できないという HP OpenVMS CIFS Server V1.1 の問題は解決されています。

3.29 共有におけるファイルの作成/修正/削除時に SMBD プロセスがクラッシュする問題

`SMB.CONF` ファイルに `change notify = no` が存在せず `SMB.CONF` ファイル内の共有パス名が完全な VMS パス名でなく論理名の場合に、SMBD がクラッシュするという問題は解決されています。

3.30 HP OpenVMS CIFS Server が `vms path names` パラメーターの値 `no` を無視する問題

ODS-5 ディスク上にある UNIX パスフォーマットの共有パス名が、たとえその共有で `vmspath names = no` が指定されていても、VMS パスフォーマットに変換されるという問題が解決されています。

3.31 SMBD プロセスが複数の場所でクラッシュする問題

メモリ破損のため複数の場所で SMBD プロセスがクラッシュするという問題が解決されています。

3.32 HP OpenVMS CIFS V1.0 TDB 移行時の TDB 移行ユーティリティのクラッシュ

HP OpenVMS CIFS Server Version 1.1 キットのインストールの際、HP OpenVMS CIFS V1.0 フォーマットの TDB を HP OpenVMS CIFS V1.1 フォーマットの TDB に移行する時に TDB 移行ユーティリティがクラッシュするという問題が解決されています。

3.33 バッファサイズを超えるドキュメントを印刷できない問題

ユーザーのバッファサイズを超えるデータを印刷する際、スプールファイルが作成された後、そのドキュメントが印刷できないという問題が解決されています。

3.34 グローバル・グループメンバーをリストする際に NET RPC GROUP MEMBERS がクラッシュする問題

\$ NET RPC GROUP MEMBERS を実行したときに、時々 NET ユーティリティのクラッシュが発生する場合があります。この問題は解決されています。

3.35 ファイルにパーミッションを設定する際にユーザー・パーミッションが見えなくなる問題

Windows からファイルあるいはフォルダーにパーミッションを設定する際に既存のユーザー・パーミッションが見えなくなる問題は解決されています。

3.36 プロセス作成時に多数の Audit ログメッセージが出力される問題

SMBD プロセスが作成されるたびに Audit メッセージが記録され、ログメッセージが蓄積されるという問題は解決されました。

3.37 Windows からディレクトリを列挙する際に SMBD プロセスがループする問題

HP OpenVMS CIFS Server V1.1 で、Windows からディレクトリを列挙する際、共有の選択で下記の SMB.CONF パラメーターが含まれている場合は、SMBD プロセスがループするという問題がありました。この問題は解決されています。

```
[sharename]
vms path names = no
vfs objects = vtf
```

3.38 ファイルアクセス時に警告メッセージが生成される問題

ファイル所有者ではない非特権ユーザーが READ/WRITE/DELETE/EXECUTE プロテクションが WORLD に設定されているファイルにアクセスしようとする時、次のような警告メッセージが出力されるという問題は解決されています。

```
"%SYSTEM-F-NOPRIV, insufficient privilege or object protection violation"
```

3.39 ユーザーアカウントの移行時に NET RPC VAMPIRE ユーティリティがクラッシュする問題

ユーザーアカウントを移行するために NET RPC VAMPIRE ユーティリティを実行した場合に、次のエラーメッセージを表示してユーティリティがクラッシュする問題は解決されています。

```
%SYSTEM-F-ACCVIO, access violation, reason mask=04,
```

virtual address=00000000000002EE, PC=00000000005C30A0, PS=0000001B
%TRACE-F-TRACEBACK

3.40 2つのユーザーセッションをサービスする際に SMBD プロセスがクラッシュする問題

HP OpenVMS CIFS PDC のメンバーである Windows クライアントから HP OpenVMS CIFS Server に対して 2 つの異なるユーザーセッションを確立した場合に、これらのセッション要求をサービスする SMBD プロセスが異常終了する問題は解決されています。

3.41 SYSUAF ファイルで READ アクセスが WORLD に設定されている場合に SMBD プロセスがクラッシュする問題

システム認証ファイルに対してデフォルトのプロテクションの代わりに READ パーミッションが WORLD に設定された環境で一般ユーザーが HP OpenVMS CIFS Server に接続しようとした場合に、このユーザーセッションのために作成した SMBD プロセスが異常終了するという問題は解決されています。

3.42 通常のドメインアカウントから HP OpenVMS CIFS Server へ印刷できない問題

通常のドメインユーザーアカウントで HP OpenVMS CIFS Server へのセッションが確立され、このアカウントが、username map ファイルにより最低限の特権で VMS ホストアカウントにマップされている場合、HP OpenVMS CIFS Server へ印刷できないという問題は解決されています。

3.43 クラスタ環境での browse.dat ファイルの累積

HP OpenVMS CIFS Server が共通の samba\$root ディスクを使用するクラスタ内の複数のノードで構成されている場合、HP OpenVMS CIFS Server が稼動するすべてのノードは同じ browse.dat ファイルを使用します。browse.dat ファイルへの書き込みは同期がとれないため、browse.dat ファイルの累積が発生していました。この問題は解決されています。

第4章 既知の問題

この章では、HP OpenVMS CIFS Server の既知の問題について説明します。

4.1 SYSGEN パラメータ ALLOCLASS が 0 の場合にクラスタ環境で発生する問題

問題:

同じ SAMBA\$ROOT インストール・ディレクトリを複数のノードで共有しているクラスタ環境で CIFS を実行している場合、SYSGEN パラメータ ALLOCLASS が 0 に設定されていると以下のような問題が発生する場合があります。

2 つの Windows クライアントが、クラスタ内の 2 つの異なるノード上の CIFS Server に接続して同じファイルをオープンしようとした場合に、CIFS はそれらのクライアントが同じファイルをオープンしようとしている事実を認識できません。このため、予想外の結果が発生する場合があります。

解決策:

以下のいずれかの解決方法を使用してください。

- SYSGEN パラメータ ALLOCLASS をゼロ以外の値に設定します。
- 各ノードで次のことを行います。
 - ALLOCLASS 値をクラスタ内の他のすべてのノードと異なる値に設定します。
 - HP Support Center にコンタクトして DECC\$SHR イメージを入手します。

4.2 Kerberos の認証が失敗する問題

問題:

CIFS が Windows ドメインに対するメンバ・サーバとして ADS セキュリティ・モードを使用して構成されている場合、多くのグループのメンバとなっているユーザに対する Kerberos 認証は失敗します。

解決策:

Kerberos のパッチをインストールする必要があります。HP Support Center にコンタクトして Kerberos のパッチを入手してください。

4.3 論理名変換が 1024 文字を超えている場合に発生する問題

CIFS は最大 20 レベルまでの論理名変換をサポートします。論理名の変換が 1024 文字を超える場合、Samba の動作がおかしくなる場合があります。

解決策:

回避策はありません。この問題は、HP CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.4 Samba サーバの構成が変更された場合に発生する共有へのアクセスの問題

Samba サーバの構成が ADS モードのメンバ・サーバからその他のセキュリティ・モードに変更された場合、新しい設定で共有にアクセスした際に、問題を引き起こす可能性があります。

解決策:

HP CIFS Server の構成を変更したときに NET ADS LEAVE コマンドを実行します。

4.5 NET RPC VAMPIRE ユーティリティのフェール

問題:

次のようなメッセージを表示して \$ NET RPC VAMPIRE "-S" <AS-NODE-NAME> "-U<adminusername>%password" コマンドがフェールします。

```
Fetching DOMAIN database
Receiving SMB: Server stopped responding
rpc_api_pipe: Remote machine<AS-NODE-NAME> pipe \NETLOGON fnum 0x4returned critical error.
Error was Call timed out: server did not respond after 10000 milliseconds
Failed to fetch domain database: NT_STATUS_IO_TIMEOUT
```

この問題はタイミングが原因で発生します。

解決策:

次のように、デバッグログレベル 10 でコマンドを実行します。

```
$ NET RPC VAMPIRE "-S" <AS-NODE-NAME> "-U<adminusername>%password" -d10
```

4.6 NET RPC VAMPIRE ユーティリティのレスポンスの遅れ

問題:

\$ NET RPC VAMPIRE "-S" <AS-NODE-NAME> "-U<adminusername>%password" 実行した場合の応答に時間がかかります。

このコマンドは、応答に時間がかかるポート 445 で通信しようとしています。

解決策:

次のようにポート番号 139 を指定してコマンドを実行します。

```
$ NET RPC VAMPIRE "-S" <AS-NODE-NAME> "-U<adminusername>%password"
--port 139
```

4.7 NET RPC JOIN または NET RPC TESTJOIN がエラーメッセージで失敗する

問題:

クラスタ環境において ASV (Advanced Server for OpenVMS) が PDC として機能するドメインに、HP OpenVMS CIFS Server をメンバーサーバーとして構成すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Error in domain join verification (credential setup failed):
NT_STATUS_INVALID_COMPUTER_NAME
```

解決策:

ASV にクラスタエイリアス名が存在する場合は、ASV との通信を試みる際に ASV クラスタエイリアス名を指定しなければなりません。これは、NET コマンド上および HP OpenVMS CIFS Server ユーティリティで「-S」または「-server」オプションを使用して行うことができます。

4.8 プロテクションおよび ACL が正しく表示されない

問題:

Windows で右クリックして「プロパティ」>「セキュリティ オプション」を選択したときにプロテクションおよび ACL が正しく表示されません。

解決策:

この問題を回避するには、「プロパティ」ダイアログボックスで「詳細設定」タブをクリックし、ファイルまたはディレクトリに設定されている正しい値を参照します。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.9 SMBPASSWD ユーティリティがクラッシュする

問題:

非特権ユーザーが SMBPASSWD ユーティリティを使ってパスワードを変更しようとするクラッシュします。

解決策：

システム管理者は特権付きアカウントで OpenVMS システムにログインでき、これによりユーザーパスワードの変更に SMBPASSWD ユーティリティを使用できます。

Windows クライアントでは、ユーザーは Ctrl+Alt+Delete を押し、次に「Change Password」ボタンをクリックすることによりパスワードを変更できます。

4.10 エラーメッセージ「The Network Name cannot be Found」

「The network name cannot be found (ネットワーク名が見つかりません)」はよく見られるエラーメッセージで、次のいずれかの誤った設定によるものです。

- 共有にアクセスしようとしたユーザーに十分なアクセス許可がない場合。共有にアクセスするには、ユーザーに読み取り (r) 許可が必要です。
- 存在しない共有名を指定した場合。

4.11 ディスクに割り当てられるファイルサイズが実際のファイルサイズよりも大きい

問題：

メモ帳アプリケーションでテキストファイルを保存しようすると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
"file already exists, do you want to overwrite"
```

ファイルを上書きすると、ファイルサイズが 1 ブロックしかなくても 10000 ブロック (5MB) を占有します。

解決策：

SAMBA\$SMBD_STARTUP.COM ファイルで /EXTEND_QUANTITY の値を次のように変更します。

```
$ SEARCH [BIN] SAMBA$SMBD_STARTUP.COM;1 10000
$ SET RMS_DEFAULT /EXTEND_QUANTITY=1
$!
```

4.12 HP OpenVMS CIFS ユーティリティがクラッシュする

問題：

ライト識別子と一致しないユーザーアカウントから PDBEDIT などの HP OpenVMS CIFS Server ユーティリティを実行すると、クラッシュします。

解決策：

解決策はありません。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.13 NET RPC JOIN コマンドが失敗する

問題：

\$ NET RPC JOIN コマンドで -I オプションを使用すると、次のようなエラーメッセージが表示されて失敗します。

```
$ NET RPC JOIN "-UADMINISTRATOR%IONETADM$1" "-I" 16.113.6.131
[2007/10/11 17:35:28, 0] SAMBA$SRC:[SOURCE.UTILS]NET_RPC_JOIN.C;1:(349)
Error in domain join verification (credential setup failed):
NT_STATUS_INVALID_COMPUTER_NAME
Unable to join domain IONETW2K3.
```

解決策：

解決策はありません。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.14 username マップファイルに格納されたユーザーマップの問題

問題：

username マップファイルに格納されたユーザーマップは、ファイル形式が Stream レコードフォーマットでなければ動作しません。

解決策：

この問題を回避するには、SAMBA\$ROOT:[LIB] ディレクトリにある username.map ファイルを使用してください。OpenVMS システムでユーザー名マップファイルを作成する場合は、次のコマンドを実行してファイルを Stream レコードフォーマットに変換してください。

```
$ SET FILE/ATTRIBUTE=(RFM:STM,MRS:0,LRL:0) SAMBA$ROOT:[LIB]<USERNAME MAP FILENAME>
```

4.15 共有における VFS モジュールの問題

問題：

ODS-2 ディスクでは、共有において「VARVFC」VFS モジュールを使用すると、サーバーが遅くなり、大量のファイルにより操作が失敗することもあります。

解決策：

解決策はありません。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.16 net time ユーティリティがクラッシュする

問題：

OpenVMS Alpha では、net time ユーティリティで -d2 オプションを使用するとクラッシュします。

解決策：

解決策はありません。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.17 Telnetsymbion プリントキューで意図しない文字がプリントされる

問題：

HP OpenVMS CIFS Server が Telnetsymbion プリントキューに設定されている場合に、メモ帳を使用してテキストファイルをプリントしようとする時、意図しない文字がプリントされません。

解決策：

デフォルトでライブラリを提供している DCPS または LPD OpenVMS プリントキューを使用します。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.18 SAMBA\$CONFIG によるクライアント・キャパシティの設定

問題：

クライアント・キャパシティは、指定された数値の倍に設定されます。HP OpenVMS CIFS Server V1.1 は、TCP ポート 139 (NetBIOS TCP/IP 経由の SMB) に加え TCP ポート 445 (TCP/IP 経由の SMB) での接続をサポートするため、SAMBA\$CONFIG.COM によって設定される「client capacity」は、実際には、admin が指定したものの倍になります。

たとえば、admin が 50 の値を指定すると、SMBD445 サービスは 50 の制限を持ち、SMBD サービスも同様です。

解決策：

ポート 139 とポート 445 の間でクライアント・キャパシティ数を分割できます。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.19 Advanced Server for OpenVMS をメンバーサーバーとして追加する場合の問題

問題：

Advanced Server for OpenVMS をメンバーサーバーとして HP OpenVMS CIFS PDC に追加する場合、HP OpenVMS CIFS PDC とのセキュアチャネルの確立中に admin ログインなどの問題が発生します。

解決策：

解決策はありません。この問題は、Advanced Server の制限によるものです。

4.20 Username マップファイルでグループを使用できない

問題：

username マップファイル内でグループ名を使用しても正しく機能しません。

解決策：

解決策はありません。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.21 NET RPC TRUSTDOM コマンドに関する問題

問題：

対応する OpenVMS アカウント (名前が <domain>\$) なしで信頼関係を追加しようとする、何もエラーメッセージを表示せずに処理が失敗します。コマンドは成功したかのように完了しますが、実際は失敗しています。

トラステッド・ドメインエントリを一覧表示しようとする、リスト内に有効なエントリがあるにも関わらず「none」という語を含むエントリが表示されます。

解決策：

解決策はありません。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.22 WINS サーバーとして構成すると NMBD プロセスがグループを開始する

問題：

SMB.CONF ファイルで次のような設定を行い、HP OpenVMS CIFS Server を WINS サーバーとして構成した場合、NMBD プロセスは計算限界状態になります。

```
[global]
wins support = yes
dns proxy = yes
```

解決策：

現在 HP OpenVMS CIFS は dns プロキシ・パラメータをサポートしていません。このため、SMB.CONF ファイルで dns proxy = no と設定してください。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.23 共有レベル・セキュリティの問題

問題：

共有レベル・セキュリティは、どのユーザーのログインも許可しません。

解決策：

passwd.tdb データベースに SAMBA\$GUEST アカウントが必要です。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.24 NET RPC FILE CLOSE コマンドが動作しない

問題：

NET RPC CLOSE FILE <fileID> コマンドを使用して開いているファイルを閉じようとするとき、何もエラーメッセージを表示せずに処理が失敗します。

解決策：

解決策はありません。この問題は HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースで解決される予定です。

4.25 Microsoft Signing を有効にすると Windows Vista にログインできない

問題：

現在は、クライアント ("Microsoft network client: Digitally sign communication (always)") およびサーバーで SMB Signing が有効になっているため、Windows クライアントはドメインにワークステーションとして正しく追加できます。しかし、ドメインに正しく追加された後、Windows は HP OpenVMS CIFS アカウントを使用してログインできず、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
"The trust relationship between this workstation and the primary domain controller failed."
```

```
"Microsoft network client: Digitally sign communication (if server agrees)" が有効になっていると、追加とログインが正常に行われます。
```

解決策：

解決策はありません。HP OpenVMS CIFS Server の将来のリリースでこの問題に対応します。

第5章 制限事項

この章では、HP OpenVMS CIFS Server の制限事項について説明します。HP OpenVMS CIFS Server に関する制限事項は、OpenVMS Alpha 版でも OpenVMS Integrity 版でも同様に適用されます。

- 同じ名前のディレクトリが存在する場合は、拡張子のないファイルを作成することはできません。
- 技術的な制約により、Advanced Server for OpenVMS を HP CIFS PDC のメンバ・サーバとして構成することはできません。
- HP OpenVMS CIFS Server は、ODS-2 ディスク上では、ディレクトリ名に "." (ドット) が含まれるディレクトリへのアクセスあるいはディレクトリ作成はできません。
- HP OpenVMS CIFS Server は外部認証をサポートしません。
- SMB.CONF の printing パラメータは「OpenVMS」という値にハードコードされており、変更できません。
- SMB.CONF の load printers パラメータは「NO」という値にハードコードされており、変更できません。
- Printcap ファイルは HP OpenVMS CIFS Server ではサポートされていません。
- ファイル共有が ODS-2 ディスクに存在する場合、HP OpenVMS CIFS Server はファイル名で Unicode 文字をサポートしません。
- HP OpenVMS CIFS Server はユーザー・マネージャなどの Windows 管理ツールをサポートしません。
- HP OpenVMS CIFS Server は SMBFS (SMB File Systems) をサポートしません。
- Windows 200x または Windows XP の Microsoft 管理コンソール (MMC : Microsoft Management Console) は HP OpenVMS CIFS Server の管理には使用できません。
- VTF モジュールを使用している場合は、Windows で ASCII 文字以外でディレクトリを作成することはできません。
- HP OpenVMS CIFS Server は SMBPASSWD バックエンドをサポートしません。
- HP OpenVMS CIFS Server は、VMS サーバーによってクォータがサポートされていないため "smbcquotas" ユーティリティをサポートしません。
- HP OpenVMS CIFS Server では、自動的に作成できるユーザーの最大数に制限があります。この制限は、OpenVMS の SYSUAF データベース・グループによるものです。UIC 値は 37776 (8 進値) すなわち 16382 (10 進値) より大きくすることはできないためです。自動作成されたユーザー数がこの制限を超えると、HP OpenVMS CIFS Server は失敗し、ログ・レベルが 6 以上に設定されている場合はログファイルに次のエラーメッセージが記述されます。

```
334598850
```

```
Which translates to %UAF-E-UICERR, error in UIC specification.
```

- HP OpenVMS CIFS Server が PDC として設定されている場合、HP OpenVMS CIFS Server PDC に追加されるワークステーション名は 11 文字以内でなければなりません。この制限は、SYSUAF データベースで OpenVMS のユーザー名の長さが 12 文字以内に制限されていることによるものです。
- SMBSTATUS ユーティリティは、匿名セッションのセッション情報を表示しません。これは、匿名セッション情報を sessionid.tbd に保管するのは高価であるという設計によるものです。